

令和6年度大学入学者選抜実態調査の結果（令和7年4月1日報道発表）

《調査結果 全体版》

文部科学省ウェブサイト「先導的大学改革推進委託事業」に掲載しています。

URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418420_00002.htm

《概要》 ※ページは全体版の該当箇所

【試験問題の公表】

- 個別学力検査における試験問題の公表状況について、国立大学（95.1%）、公立大学（88.8%）、私立大学（92.8%）とも約9割が全て又は一部を公表している。《P5》

【選抜方法の実態】

- 一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜の3つにおいて、総合型選抜の割合が増加。《P23》
- 学校推薦型選抜の種類を入学者数別でみると、公募型が国立大学99.2%、公立大学90.2%、私立大学22.3%である。《P28》

【大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」）の利用の実態】

- 一般選抜において共通テストを利用して合否判定する選抜区分は、国立大学96.2%、公立大学98.5%、私立大学44.5%である。《P41》
- 共通テストを利用して合否判定する場合、一般選抜においては、国立大学は7科目の利用、公立大学は7・4科目の利用、私立大学は3・2科目の利用が多い。《P48》

【個別選抜の実態】

- 共通テストを利用していると回答した選抜区分のうち、更に個別学力検査（※1）を実施しているのは、一般選抜69.1%、総合型選抜8.0%、学校推薦型選抜1.5%である。《P61》
- 一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 87.4%）、数学（同 76.3%）、国語（同 70.0%）を出題する選抜区分が多い。《P72》

【英語資格・検定試験の活用の実態】

- 前回（令和5年度調査）と比較し選抜区分数の総数が2,208区分増加したなか、英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は1,706区分増加。《P132, 149-151, 154-156, 159-161》実施割合は一般選抜（28.1%）、総合型選抜（34.1%）、学校推薦型選抜（27.1%）であり、前回調査と比較し、一般選抜で3.0ポイント、総合型選抜で0.5ポイント、学校推薦型で0.3ポイント上昇している。《P132》

【記述式問題等の出題の実態】

- 一般選抜における個別学力検査において、記述式問題を出題している選抜区分の割合は、国立大学は全体の99.9%、公立大学は98.4%、私立大学は37.1%である。《P167》
- 一般選抜における個別学力検査において、記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数は、国立大学68,193人（98.4%）、公立大学16,596人（99.0%）、私立大学88,483人（56.4%）である。《P183》

※1 本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。